

防災士取得者の意識要因分析～松山市を対象として～

愛媛大学大学院 学生会員 ○井出皓介
愛媛大学大学院 正会員 二神透
愛媛大学 非会員 狩野涼介

1. 背景・目的

日本は他国と比べて、災害大国と言われていることから、日頃から防災への対策は欠かせないものとなっている。また日本は従来から防災を最重点の課題として取り組み、災害に関する学問的な研究は、世界でもトップクラスである。しかし、1995年に発生した阪神・淡路大震災では被害規模が大きく、公的機関の対応だけでは間に合わない状態であった。その中で、家族や近隣住民が協力して救出をした約27000人のうち、8割が生存したことが分かっている。このことから自助、共助が強く要求され、地域の防災力を向上させる必要がある。そのためには、1人1人が防災に関する知識、技能を身に付ける必要がある。阪神・淡路大震災を教訓とし、人という資源を活用して社会全体の防災力を高めるために防災士制度が誕生した¹⁾。防災士は、日頃の防災対策や災害後の支援活動に積極的に参加されているため、今後発生すると想定される南海トラフ巨大地震などに大きく期待されている。近年、愛媛大学と松山市は防災士取得者の数が増加傾向にあるが、防災意識が高いか不明であり、過去に防災士を対象とした意識分析に関する研究はまだされていない。そこで本研究では、防災士と一般住民の意識の違いを調査し、防災士取得の影響要因を分析する。

2. 研究概要

(1) 防災士の定義

防災士とは、社会の様々な場で減災と防災力向上のための活動が期待され、十分な意識と知識、技能を有した人を示す。

一般学生、一般住民は本研究では防災士を取得していない人と定義する。

(2) アンケート調査

本研究では、愛媛大学の学生と松山市の一般住民の防災士取得者と未取得者を対象に防災意識の確認のアンケートを実施した。学生防災士は、平成27年9月25日に愛媛大学で開講された環境防災学を受講した100名の方に協力して頂いた。防災士未取得の学生は、愛媛大学工学部環境建設工学科2回生の講義受講者109名に協力して頂いた。一般住民の防災士は、平成27年8月22日、10月18日に愛媛県松山市で実施された防災士養成講座の受講者460名にその場で回答して頂いた。防災士未取得者の一般住民は、平成27年12月10日に松山市19地域に1000部無作為で郵便ポストへの投函を行った。その結果、315部の回収数を得て、31.5%の回収率を得た。その中の有効アンケート数は303部であった。

設問項目は、個人属性、防災士資格取得のきっかけ、地域の防災活動に対する自分の意識、地域の防災活動、周囲の人々の意識・行政の防災対策、住んでいるまちに対する意識の6つの項目に分けて構成した。

3. 分析内容

防災士が地域防災に対する意識が高いことは自明であるため、防災士の意識が高い影響を与える要因について見つけ出す必要がある。設問項目「地域防災に対する自分の意識」、「地域の防災活動について」、「周囲の人々の意識、行政の防災対策について」、「住んでいるまちに対する意識について」において、従属変数に、説明変数がどれほど影響を及ぼしているかロジスティック式を用いて分析を行う。まず強制投入法を用いてすべての意識規定要因よりもっとも影響度が高いものを導き出す。次に変数増加法を用いて[単独で]最も寄与している説明変数を探し出して選択し、あとは逐次、変数の追加と除去を繰り返し、最適な組み合わせを

見つけていく。今回は、wald を基準とする統計量を行う。その結果を表-3.1、表-3.2 に示す。複数の要因からオッズ比の値を比較して最も数値が高く、オッズ比の95%信頼区間を見て有意差があるか確認する。今回の結果から、学生防災士は5つの組み合わせがすべて有意には働いていることから、最も影響を及ぼしている結果と出た。一般住民の防災士は11つの組み合わせがすべて有意には働いていることから、最も影響を及ぼしている結果と出た。

表-3.1 学生防災士の要因の影響度

| 学生 | オッズ比 | 95%信頼区間 | 有意確率 |
|---------------|-------|-------------|-------|
| 地域防災の重要性 | 1.529 | 1.045-2.238 | 0.029 |
| 災害への危機感 | 2.080 | 1.022-4.235 | 0.043 |
| 防災対策の有効性 | 2.099 | 1.301-3.386 | 0.002 |
| 周囲からの個人規範 | 2.328 | 1.353-4.005 | 0.002 |
| 行政が行う防災対策への興味 | 1.856 | 1.210-2.845 | 0.005 |

表-3.2 住民防災士の要因の影響度

| 住民 | オッズ比 | 95%信頼区間 | 有意確率 |
|---------------------|-------|-------------|-------|
| 地域防災の重要性 | 0.691 | 0.541-0.882 | 0.003 |
| 防災活動への責任感 | 1.744 | 1.157-2.630 | 0.008 |
| 道徳意識 | 2.130 | 1.419-3.198 | 0.000 |
| 自然災害の危険性 | 1.567 | 1.287-1.909 | 0.000 |
| 防災対策の有効性 | 1.272 | 1.088-1.488 | 0.003 |
| リスク点検の容易性 | 1.283 | 1.058-1.555 | 0.011 |
| 周囲からの個人規範 | 1.753 | 1.308-2.350 | 0.000 |
| 行政が行う防災対策への興味 | 1.734 | 1.280-2.348 | 0.000 |
| 地域に自分が属しており、一員である意識 | 0.660 | 0.469-0.928 | 0.017 |
| 地域と深く関わりたい感情 | 0.658 | 0.514-0.841 | 0.001 |
| 地域の人と喜び、苦難を共感する気持ち | 1.809 | 1.402-2.334 | 0.000 |

4. 考察

防災士の資格取得講座を受講した学生、一般住民は、防災士未取得者と比較して意識が高いことが明らかになり、さらに防災意識が高いと影響している要因も学生と一般住民と異なっていることが証明できた。最初は意識が低い可能性があったなかでも、防災に対する勉強をし、防災士を取得することで意識が向上することが考えられる。学生において今後は、集中講義や共通教育の講義を通して、行政と連携し、専門家からの講演会等を講義に取り入れ、防災意識を高めるために、1人1人の防災対策や、災害の危険度を認知させるべきであると考え。一般住民も災害に対して個々で可能な限りでできる防災対策・責任感の向上に各町内で防災士が率先して会議や話し合いを設けることが望ましいと考える。

5. 今後の課題

今回は、松山市を対象にアンケートを行った。今後は、愛媛県の各市町で今までに防災士を取得した人々の現在の防災士に関する活動実態を調査し、取得した時ではなく、取得した後も防災士の一員として継続的に活動を行っているか分析することで、継続的に活動している人としてない人の差を見つけ、防災士の活動を活発にしていく案を検討することができると考える。

参考文献

- 1) 特定非営利活動法人 日本防災士機構：防災士教本 2015, 4月